

令和 7 年度 第 1 回大口町保育所運営委員会 会議録

開催日時	令和 7 年 7 月 4 日（金）午後 1 時 3 0 分より
開催場所	健康文化センター 1 階 多目的室
出席者名	議会議員代表 3 名 民生委員・児童委員代表 3 名 保護者代表 6 名 事務局 9 名
次 第	1 自己紹介 2 委員長選任について 3 協議事項 (1) 令和 7 年度保育所運営費の概要について（資料 No. 1） (2) 令和 7 年度の保育所運営について ・園児数（資料No.2） ・年間計画（資料No.3-1～3-5） (3) 各保育園の取り組みについて 保育園パンフレット（資料 No. 4-1～4-4） 4 その他

（進行：こども課長）

	1 自己紹介 2 委員長選任
--	-----------------------

（進行：委員長）

事務局	3 協議事項 (1) 令和 7 年度保育所運営費の概要について（資料 No. 1） 支出総額：9 億 2, 9 1 8 万 6 千円 収入総額：1 億 6, 0 1 6 万 6 千円 差引額=町負担分：7 億 6, 9 0 2 万円 (支出について)
-----	--

保育長	・報酬、給料、職員手当等、共済費、旅費は、職員に係る経費になる。 ・需用費は保育や給食用の消耗品費となる。今年度7月から始まった、未満児のおむつの全額公費負担での提供分もここに計上している。 ・役務費の主なものとしては、保育士の確保を目的に、人材紹介会社を利用し ての採用を予定しており、採用となった場合には、推定年収に紹介料を乗じた 手数料を支払うために計上している。 ・委託料の主なものとしては、社会福祉法人 宝光福祉会が運営している大口 中保育園に対し、人件費や運営に係る事業費・管理費を支払うための民間保育 所運営費委託料、および公立保育園3園の施設管理のための各種保守点検委 託料等が計上されている。 ・使用料及び賃借料は、令和5年10月に導入した『保育園業務支援システム (Kids plus)』利用のための月額利用料等が計上されている。 ・工事請負費と備品購入費は、現在故障しているものの取替えや買換え費用等 が計上されている。 ・負担金補助金及び交付金の主なものとしては、大口中保育園の人件費に対 し、委託料で賄いきれない部分を補助する民間保育所補助金等が計上されて いる。 (収入について) 主なものとしては、幼児教育無償化や大口中保育園に係る経費や工事費の補 助など、国や県からの歳入が9,790万9千円、保護者の皆様にお支払いいた だいている保育料が5,560万9千円、延長保育を利用される方が支払う 延長保育料や休日保育の利用料等が664万8千円となっている。 一人あたりの費用額は、令和7年4月1日現在の園児数を基に年間利用延べ 人数を出し、支出総額を延べ人数で割ったものであるが、1人当たりの月額が 13万6,565円となり、そのうち町負担分が11万3,025円で全体の 82.8%を占めている。保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が 8,173円で全体の6%となっている。 (2) 令和7年度の保育所運営について 今年度、子育て支援として、3歳以上児は4月から給食費の無償化、3歳未 満児は7月からオムツの無償提供の運用を始めた。また、2歳児の保護者が育 児休暇を所得することによる退園制度を廃止した。 園児数の説明 (資料No.2)
-----	---

令和7年6月1日現在の園児数は、定員790名のところ、586名のお子様をお預かりしている。内訳として、南保育園117名で7クラス、西保育園194名で11クラス、北保育園140名で9クラス、大口中保育園135名で9クラスの運営をしている。今後、育児休業明けで仕事復帰をされる方など、途中入所のお子様を27名お預かりする予定になっており、合わせて、年度内613名の園児数になる予定である。転入や就労でお問い合わせいただいたお子様についても、毎月の入園審査会を経て、保育の必要性を認定し、入園案内をさせていただく。

職員数については、南保育園は34名、西保育園は52名、北保育園は45名、大口中保育園は39名で保育を行っている。園長、副園長、クラス担任保育士の他に、加配保育士、週休・休憩対応などの保育士、調理員、管理栄養士、看護師、事務員も必要に応じて配置しており、大勢の専門職員で大切なお子様をお預かりしている。

年間計画の説明（資料No.3-1）

入園進級式でお配りした「ことしのあゆみ」に、主な行事が載せてある。保護者の方に参加いただくものには○印がつけてある。5月下旬、全園児引き渡し訓練をアプリ配信で行った際は、大勢の保護者の方にご協力をいただいた。有事に備えて、1月下旬にもう一度行う計画をしている。9月の年少児保育参観は、試食会も一緒に計画している。10月の運動会は、暑さを考慮して、昨年度より第2週の土曜日開催とさせていただいている。2月には3歳以上児の保育参観を計画している。

下段には、「毎日家庭で行える子育て3か条」が載せてある。これは学校用の子育て10か条をもとに、乳幼児を対象としたものを作りたいということから、平成27年度に保育士と幼稚園教諭で作成した。何かと忙しい毎日だが、家庭や保育園で心掛けていけたらいいと思う。右側には、園生活の一日の流れを載せさせていただいている。

各保育園別の年間計画（資料No.3-2から3-5）

保護者の方に4月末に配信した保育園別の年間計画である。予定を立てるときに利用していただきたい。

（3）各保育園の取り組みについて

南保育園（資料No.4-1）

南保育園 園長	南保育園は、7月現在3歳未満児35名、3歳以上児82名、合計117名のお子様をお預かりしている。 子どもにとっての遊びの意識をふまえ、子ども像を「豊かな心と丈夫なからだでよく遊ぶ子ども」とし、年齢に合わせた保育目標を掲げて活動を展開している。園舎は、田畑に囲まれ、田植えや稲刈りの様子、草花の生長、訪れる虫や鳥などの生き物の姿を間近に見ることができる自然に恵まれた環境の中にある。この自然環境を活かしながら、大勢の友達と集団生活を送る中で、遊びを中心に様々な体験をして、豊かな心と丈夫な体を育てることを目指している。 SDGsを意識した活動について、第一に「郷土を愛する心を育む」を南保育園の目標に掲げて、保育活動を行っている。 保育園の近くには歴史的文化財などもあり、大口町歴史民俗資料館の学芸員さんを招いて、南部地域にまつわる話を聞き、映像や写真を見せてもらった後、実際に現地に出かけている。また、園周辺の農道を散策し、草花や生き物など、豊かな自然にたくさん触れて、子どもたちの好奇心や興味が膨らむような活動も行っている。その時の子どもの印象に残ったことを表現した絵と、子どものつぶやきを組み合わせて「郷土愛かるた」の作成をし、遊びに取り入れている。「郷土愛かるた」で遊ぶことで、自分たちが訪れた場所や場面を振り返り、思い出すことで、大口町の良さを感じられるようになってほしいという思いで進めている。子どもたちが自分の住んでいる町のことを知り、生まれ育った大口町を好きになり、「大口町って素敵だな」「大口町にずっと住んでいたいな」という気持ちが育ってくれるようになることを願っている。 地域交流について、地域の老人クラブの方に保育園に来ていただいたり、一緒に散歩に出かけたりしながら交流を深めている。その中で、SDGsを意識した保育活動を知っていただく機会も設けている。今年度は、5月に豊田地区の方々と一緒に、堀尾跡公園や八剣社で学芸員さんから裁断橋について話を聞いたり、散策を楽しんだりした。道中、子どもの見守りをサポートしていただき、安全面での協力もしていただいた。今後は、秋田地区・大屋敷地区の老人会の方との交流も計画している。保育園が、地域の方にいつでも気軽に来ていただけるような場所となるよう、関わりを大切にしていきたいと考えている。 南食育サポートの方との食育交流事業について、南食育サポートの方にご指導をいただきながら、園の畑で野菜を栽培している。水やりや草抜きなどの世話や収穫を体験することで、育てることの大変さや食べ物大切さがわかり、収穫した野菜を給食の食材に取り入れることで「食べる喜び」を感じ「感謝の気持ち」が育つようにと考えている。現在は、毎日、きゅうりやなす、ピーマンなどの夏野菜が収穫でき、とりたての野菜を給食で味わっている。おいしく
--------------------	---

	食べることが、健康な体づくりにもつながっている。 体力づくりについて、園庭には、雲梯、鉄棒、ブランコ、滑り台、登り棒など、たくさんの固定遊具がある。固定遊具で遊ぶ中で、登る、ぶら下がる、支えるなど、様々な動きを経験することで、筋力やバランス感覚、持久力などが育っている。また、のびのびとおもいきり体を動かして楽しむことで、挑戦する気持ちや達成感が育まれ、丈夫な体づくりにつながっている。 木育活動について、木に触れ、木で作り、木で遊ぶ「木育」を通して、子どもたちの心と体を育んでいる。園庭や散歩先にある木の様子を見て変化に気づいたり、見つけた木の実・枝などの自然物を使って製作したりすることで、木に親しんでいる。年中児は、親子でマイ箸づくりを経験し、保護者に向けての発信をしている。 今後も、保育園と地域、家庭との連携を大切にし、地域と共に子育てできる保育園づくりをめざしていきたいと思う。
南保育園 父母の会会長	南保育園 父母の会の取り組み フォトレコでの写真販売 絵本の読み聞かせボランティア「ともちゃんズ」 お楽しみ会 畑の手伝い 保育園行事の手伝い（7月の七夕会、8月の夏祭りなど） 8月 名古屋経済大学の学生サークル「こんぺいとう」による人形劇の観賞
西保育園 園長	西保育園（資料 No. 4－2） 西保育園は、7月現在3歳未満児65名、3歳以上児130名、合計195名のお子様をお預かりしている。新年度が始まり、3か月が過ぎた。入園したお子さんも新しい生活に慣れ、笑顔で登園している。また、在園児もひとつ進級し、大きくなったことを喜び、元気に過ごしている。 食育、木育、体力づくりを主な取り組みとし、それぞれの年齢の発達に応じた保育活動を行っている。その中で、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、様々な経験を通して豊かな心をはぐくむ保育を目指している。 食育では、園舎東にある畑「西保ファーム」で地域の食育サポートの方々と一緒に野菜作りをしている。苗植え、水やりや草取り、収穫など体験することで、野菜がどのようにできるのかを知り、食への関心を広げている。年長児による園内放送「給食Gs」では、畑で収穫した野菜や食材の紹介をし、給食の残食量を知らせている。また、野菜くずや残食を生ごみ処理機でたい肥にし、畑で野菜の肥料にするといった「作る→食べる→使うの“食の循環”」も伝え

	ている。「食に対する感謝の気持ちを育み、給食の残食を減らす」といった活動が、SDG s を意識した活動として継続されている。 木育では、西保育園の未満児園舎や回廊が木造であることから、日ごろから木のぬくもりを感じ、木に親しみをもって過ごしている。園近くの白山ふれあいの森にもよく散歩に出かけ、色々な木に触れ、自然物を使って遊んでいる。また、年中児親子で「マイ箸づくり」も行っている。子どもたちが木の香り、感触、音など五感を使って感じ、体験する中で自然や人の命を大切にする心を育んでいる。 体力づくりでは、芝生園庭や園庭にある大小2つの山を駆け上ったり、降りたりして楽しみ、広い回廊では全身を使った運動遊びを行っている。また、散歩に出かけたり、歩道橋の階段を昇り降りしたりすることで、年齢に応じた体の使い方、歩き方をし、体幹が鍛えられたり、柔軟な体づくりができたりと心身のたくましさを養っている。 その他にも、「人とかかわり方を学び、社会性や協調性、思いやりの気持ちを育む」をねらいとした、異年齢児交流を行っている。普段の生活や遊び、季節の行事の場面で交流がもてるよう計画し、取り組んでいる。 郷土を愛する心を育む活動として、余野地区にある「山姥物語」や「白山ふれあいの森古墳群」について歴史民俗資料館の学芸員より話を聞いたり、現地に行ったりする中で、身近な郷土を知らせ、町の歴史を知ることによって自分の住んでいる町、大口町に関心や愛着が持てるようにしていきたい。 今後も地域や保護者の皆様のお力をお借りしながら、地域、保育園、家庭が一緒になり、ともに子育てをしていきたいと思っている。
西保育園 父母の会副会長	西保育園 父母の会の取り組み 移動水族館 風船太郎 ダッシュマン 保育園夏祭りのブース 写真撮影（年間12回） フォトレコの写真販売（4回） オイスカ森の積み木広場（エコキャップとアルミ缶回収） プレゼント
北保育園 園長	北保育園（資料 No. 4－3） 北保育園は7月現在、3歳未満児44名、3歳以上児98名、合計142名

のお子様をお預かりしている。

北保育園は、木造で、木の香りや温かみ、感触や通気性の良さを活かした、四季の変化を感じる園舎となっている。その中で、子どもたちはのびのびと開放的な気分を味わいながら過ごしている。

体力作りでは、芝生園庭で、体を十分に動かす全身運動、走ったり跳んだりして足腰を鍛えることを目標に取り組んでいる。固定遊具がなくて心配される手や腕を使うこと（握る・引っ張る・支える・押すなど）も、広い回廊や室内を有意義に使い、遊び方を工夫しながら意識して取り組んでいる。年長児は、回廊の雑巾がけを行い、手・足・体幹を鍛えている。

食育では、保育園の畑で、きたきた食育サポートの方と一緒に、野菜を育て、収穫し給食に取り入れている。収穫した野菜は、「給食ゴーゴー」という名の園内放送で、年長児が給食に入っている野菜を紹介している。「育てる」「収穫する」「食べる」という農と食の体験を通して、「育てることの大変さ」「収穫・食べる喜び」「人や食べ物への感謝」など、子どもたちの豊かな心と生きる力につながるよう取り組んでいる。

木育では、木に触れ、木で遊び、木で作る取り組みを通して、子どもたちの心と体の成長を育んでいる。年中児は、保護者の方にも木に触れていただき、親子で箸作りを行っている。木曜日を『もくもくの日』として、木に関する絵本の読み聞かせや、自然物を使った遊びのコーナーを楽しんでいる。また、『第3木曜日は地域の方と一緒にもくもくの日』として地域の方にも参加していただいている。今年度は7月から始めるよう準備している。

地域交流では、ふれあい交流会「あやとり」の方々と交流の機会を設けている。先ほど説明させていただいた食育、木育でも地域の方にはお世話になっている。交流を続け、気軽に保育園に足を運んでいただける関係を作り、子ども達には人を思いやる心、人に親しむ心が育つよう取り組んでいる。

SDGを意識した保育活動は継続している。園舎の建築から8年経った。日常の保育の中で「園舎を大切に使う」気持ちをもって、回廊や外階段を子どもたちと一緒に拭いたり磨いたり、紙やすりを掛けてなおしていく活動が続いている。今年度は、ビオトープ周辺にも目を向け、植物や生き物との触れ合いも通して、自然の大切さや環境への意識の高まりも目指していきたいと思っている。

今後も、子どもたちと地域、保護者、保育園がつながり、一緒になって子どもを育てていく「子どもを真ん中においたまちづくり」を目指していきたいと思っている。

北保育園 父母の会会長	北保育園 父母の会の取り組み イチゴ畑の管理 イチゴの世話、草取り、ネットはり イベント 7月森の積み木広場 エコキャップの回収（全園児） アルミ缶回収（父母の会・職員） 夏祭り出店 お楽しみ会 ピエロのトントさん プレゼント 夏祭り、運動会、クリスマス、卒園・進級 写真販売 フォトレコ
大口中保育園 園長	宝光福社会大口中保育園 （資料№.4－4） 大口中保育園では、7月1日現在、以上児95名・未満児41名の園児さんをお預かりしている。 保育形態として、「遊び中からの学び」を保育の柱として、一人ひとりの主体性を大切にする保育を行っている。子どもたちの「やってみよう」という気持ちを大切に遊びの中で学びを育んでいき、友達と一緒に工夫したり、時にはぶつかったりしながら、社会性や思考力が自然と育っていけるよう取り組んでいる。 季節ごとの行事では、四季折々の自然の中で様々な体験を通して、子どもたちの心と体の成長を支えている。春には、五条川沿いのお花見や散歩を楽しみながら自然に親しみ、夏はプールや水遊びに加え、七夕や夏祭りごっこなど、日本の伝統行事にも親しみ、秋は運動会や芋ほり、ハロウィン・クッキング体験などを通して、挑戦する気持ちや食への関心を育てている。冬は生活発表会やお正月遊び、節分・ひな祭りなど季節や文化を感じる活動が盛りだくさんとなっている。 コーナー遊び「遊びのミュージアム」とあるが、ままごと・ブロック・制作・絵本・パズルなど子どもたちが自由に遊べるコーナー遊びの環境を整えており、それぞれのコーナーで、じっくりと遊びに取り組む中で、「やってみたい」「こうしてみよう」という気持ちが育っている。また、友達とのやりとりを通して、伝え合う力や思いやりの心が育まれている。 子どもたちの健やかな成長には、体を思い切り動かす体験が欠かせない。当園の特色でもある体力作りでは、楽しみながら自然に体力を養う取り組みを行っている。ウィル大口さんの体操教室をはじめ、サッカー・プール教室や、走る・跳ぶ・登るといった全身を使う活動を日々の保育に取り入れ、基礎体力やバランス感覚、そして友達と関わる力も育んでいる。 食育活動では、畑やプランターで野菜の苗植えに挑戦している。園庭にあ

	るプランターに毎日水やりをしながら生長を見守り、自然の大切さを感じている。食育クッキングでは、「自分たちで育てた野菜を使う」経験を通して、食べる事の大切さや感謝の気持ちを育んでいる。 行事があった日は、ホットニュースとして降園時に保護者向けに写真で紹介している。ホームページは、月1回更新しているので、見て頂けたらと思う。 課外活動として、遊戯室でダンス教室や体操教室を行っている。園からそのまま教室に通え、延長時間内に終われることで、保護者の方からご好評いただいている。 その他の事業として、一時預かり保育を行っている。今年度は、6月までの3カ月間で延べ293人のお子様のご利用があった。 理由は、保護者の方のリフレッシュが一番多く、他に就労や就活、通院する為などであった。
大口中保育園 父母の会会長	宝光福祉会大口中保育園 父母の会の取り組み 「はいチーズ！」による写真撮影販売（七夕会、ハロウィン、クリスマス会） イベントごとのプレゼント マンドリンアンサンブル 七夕会のブース 「ハロー！どっこくん。」1月頃
事務局	5 その他 愛知県が行っていた第3子以降の保育料の無償化、または軽減制度が、10月から第2子以降に事業拡大となる。特に保護者の手続きは必要ない。毎年9月に利用料の見直しをしているが、今年は10月に該当する方に通知をし、軽減や無償化の対象になる方にはご案内させていただく。
西保育園 父母の会副会長	父母の会役員の中から意見があがっている。 プールの時期について、最近、厳しい暑さで熱中症警戒アラートが出されてプールができないことが多い。もう少しプールの時期を早めてはどうか。 特に年長児の保護者からの昼寝をすると夜寝なくて困っているとの意見が出た。個人的には自分の子どもは昼寝があることで助かっている。昼寝がないと夕飯の時に寝てしまうこともある。選択制にしてはどうかとの意見もあった。保育士の配置が難しくなると思うが、保育園側の意見、説明を聞きたい。

保育長	運動会について、昨年は年中、年長児の開催であったが大変混雑し、席取りに朝早く並ぶ保護者もいた。混雑の緩和はできないか。具体策として音楽発表会のように優先席を設けてはどうか。年中児と年長児を分けて開催できないか。以上、検討していただきたい。 プールについては、他の行事等や気温の低い日があったりしたが、見直しの時期に来ているのかと思う。今後検討していきたい。 午睡については、お子様の健康を考え、プールが始まると体が疲れる子どもが多いので必要と考える。実質１時間ほどの睡眠時間である。今後検討していきたい。 運動会については、昨年度検討し北保育園と南保育園は合同で行う部分を作った。西保育園は敷地が狭いということで、年少児と年中、年長児を分けて開催した。今年度そのような形で開催するかは園で相談し、検討していく。
南保育園 父母の会副会長	先ほどの話で、プールがあるから午睡があるのはわかる。プールがあると体が疲れるので午睡させてもらうのは助かるので、午睡開始とプール開始を一緒にしていただけないか。
保育長	年中・年長児の午睡開始は暑くなる時期なので、それも含めて検討していく。
南保育園 父母の会副会長	プールの開始時期を早めてはどうかといった意見もあるので、それも含めて検討していただければと思う。
保育長	閉会の挨拶